御代田町まちづくり基本計画

目　次

序論　まちづくり基本計画とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

１．町の魅力と特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

２．現状や動向を踏まえた主な課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

３．まちづくりの目標と方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

４．まちづくりの重点プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

５．今後のまちづくりの展開と体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

序論　まちづくり基本計画とは

（１）計画の背景と目的

御代田町は、日本百名山浅間山の南麓に位置し、かつては旧中山道小田井宿の宿場が置かれた豊かな自然環境に恵まれた町である。また、日本有数のリゾート地である軽井沢に隣接し、気候風土に適した精密工場や食品工場も多く立地している。

当町には、首都圏や県外からの人口が流入しているほか、県内からの人口の流入もみられ、依然として人口が増加傾向にある、県内でも稀な自治体の一つである。この人口増は、今後も当面は継続するものと見込まれ、良好な環境を保ちながら居住を受け入れる適正な立地コントロールと誰もが住みたくなる･住み続けたくなる魅力あるまちづくりが求められている。

本計画は、良好な居住環境の形成に主眼をおき、現状･課題を踏まえて、当町の目指すべきまちづくりの方向性や施策･事業展開の指針とするものである。

（２）計画対象と計画期間

本計画は御代田町全域を対象とし、計画期間は令和５年度から令和 24 年度までの 20 年間とするなかで、計画内容は必要に応じて見直しを行い、次期御代田町都市計画マスタープランの改定時には同プランとの統合化を図るものとする。

（３）計画の位置づけ

本計画は非法定の任意の計画であるが、現状を踏まえ、より魅力のあるまちづくり形成の観点から現行の都市計画マスタープランを補完し、立地適正化計画などに基づく土地利用施策や今後の都市計画事業の指針とするものである。

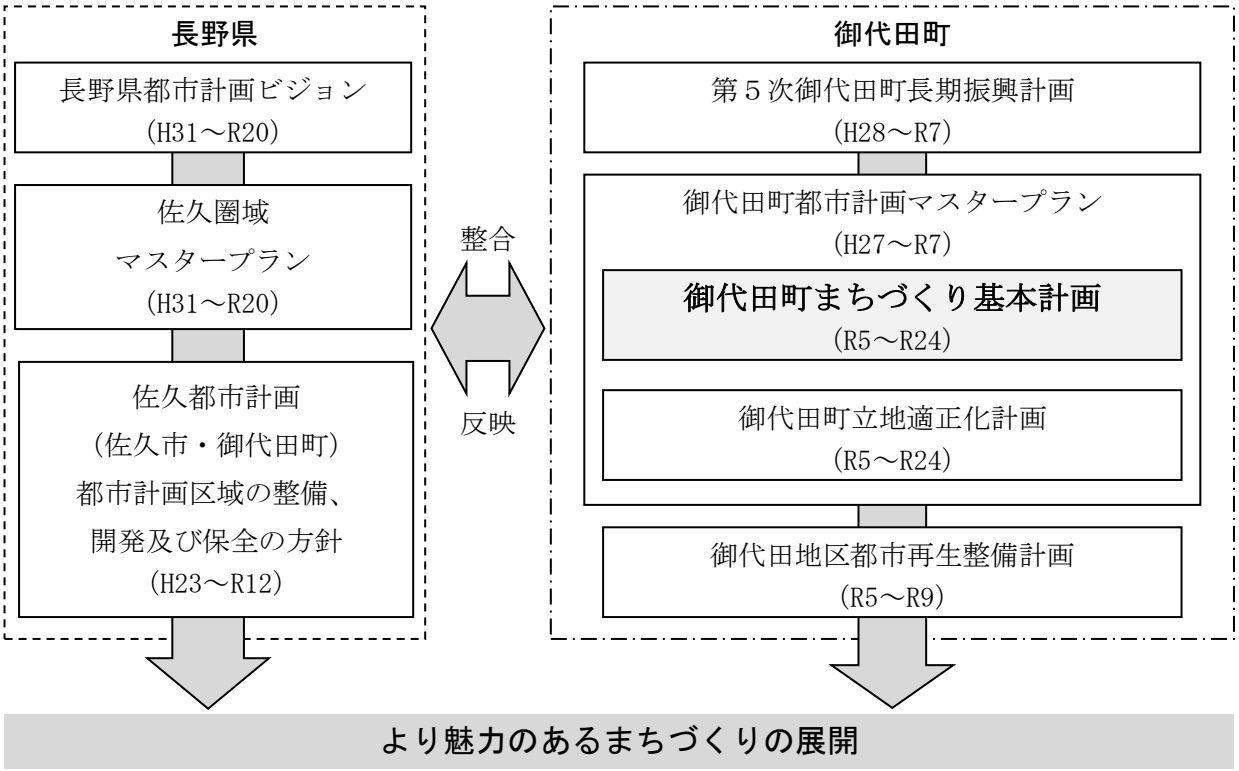


図　計画の位置づけ

１．町の魅力と特性

（１）町民アンケート※からみる町の魅力

令和３年度に町民を対象に実施したアンケート（以下「町民アンケート」という。）によると、町民が思う御代田町の住環境の魅力として、「緑や自然の豊かさ」や「佐久や小諸、軽井沢などへのアクセスのしやすさ」が多く挙げられた。

自由記述による御代田町の住環境の魅力でも、「自然」や「豊か」などのワードが多くみられ、自然環境を魅力と考えている町民が多いことがわかる。

※御代田町のまちづくりに関するアンケート（2022 年）

項目	回答率（%）
緑や自然の豊かさ	72.4
佐久や小諸、軽井沢などへのアクセスのしやすさ	63.4
災害の少なさ	43.8
景色や眺望のよさ	41.6
公園の充実度	28.2
治安のよさ	28.0
町内の買い物の利便性	26.0
首都圏へのアクセスのしやすさ	22.6
道路の利便性	14.9
地価や家賃の安さ	12.2
子育て支援施設･サービスの充実度	8.7
医療機関の充足度	8.7
福祉･介護支援サービスの充実度	6.1
道路の安全性	4.7
地域の歴史や文化	4.1
町内の飲食店の魅力	3.7
地域コミュニティの充実度	3.3

図　住環境の魅力として実感していること･評価していること（n＝738）

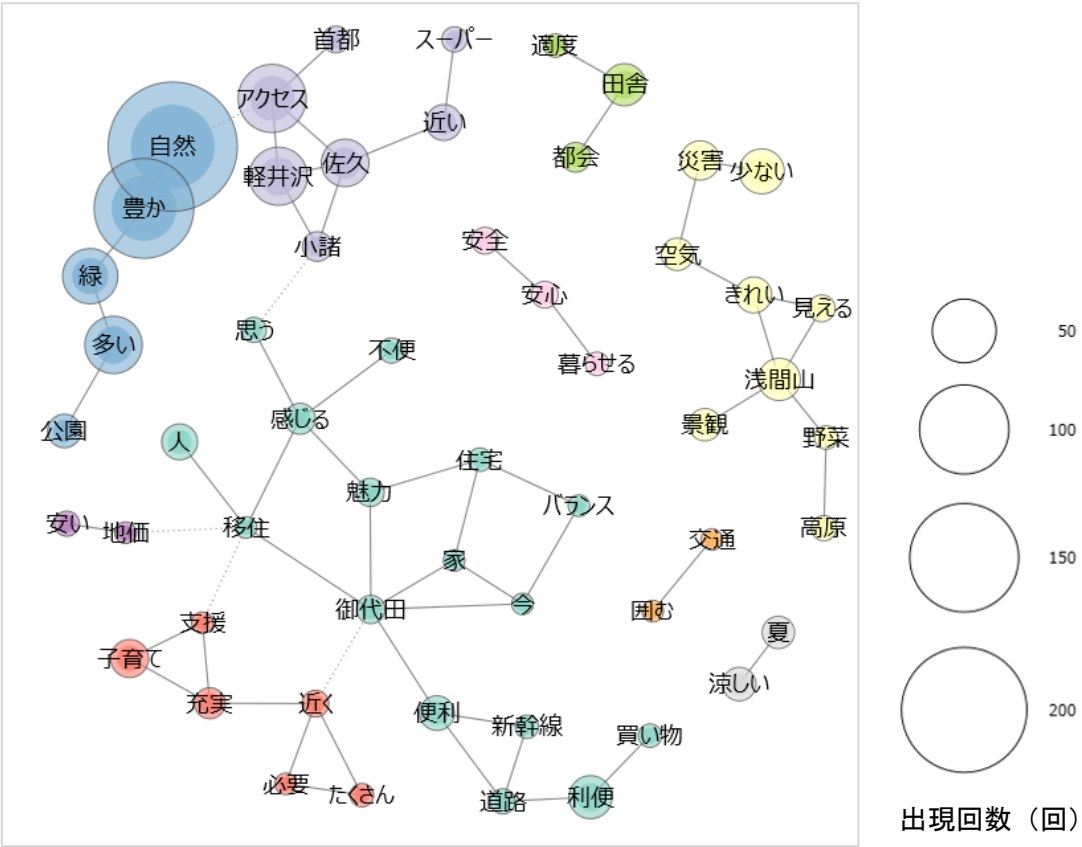


図　御代田町の住環境の魅力として挙げられた頻出語とその共起関係
（n＝524、最小出現回数５回以上＝55）

（２）地勢・位置・気候

当町はそれぞれに特徴の異なる３市町（佐久、小諸、軽井沢）に隣接し、北側に雄大な浅間山の裾野が広がり、佐久平に向かって開けた南側は遠方に蓼科山や八ヶ岳等の山並みを望む。

標高は約 700～2,500mに位置しており、生活圏は約 700～1,000mに広がっている。夏は過ごしやすい一方、冬は雪が少ないものの寒さが厳しい。

図　御代田町の町域と地勢

（３）地形・地質

町全体が浅間山の噴火による噴出物が堆積してできた山麓地形上にある。地質は軽石や火山灰からなるエリアが大半を占め、降雨が地下に浸透しやすく、水田にはあまり適していない。

南側の湯川沿いには、“田切地形”と呼ばれる川の浸食作用でできた特異な地形が顕著にみられる。

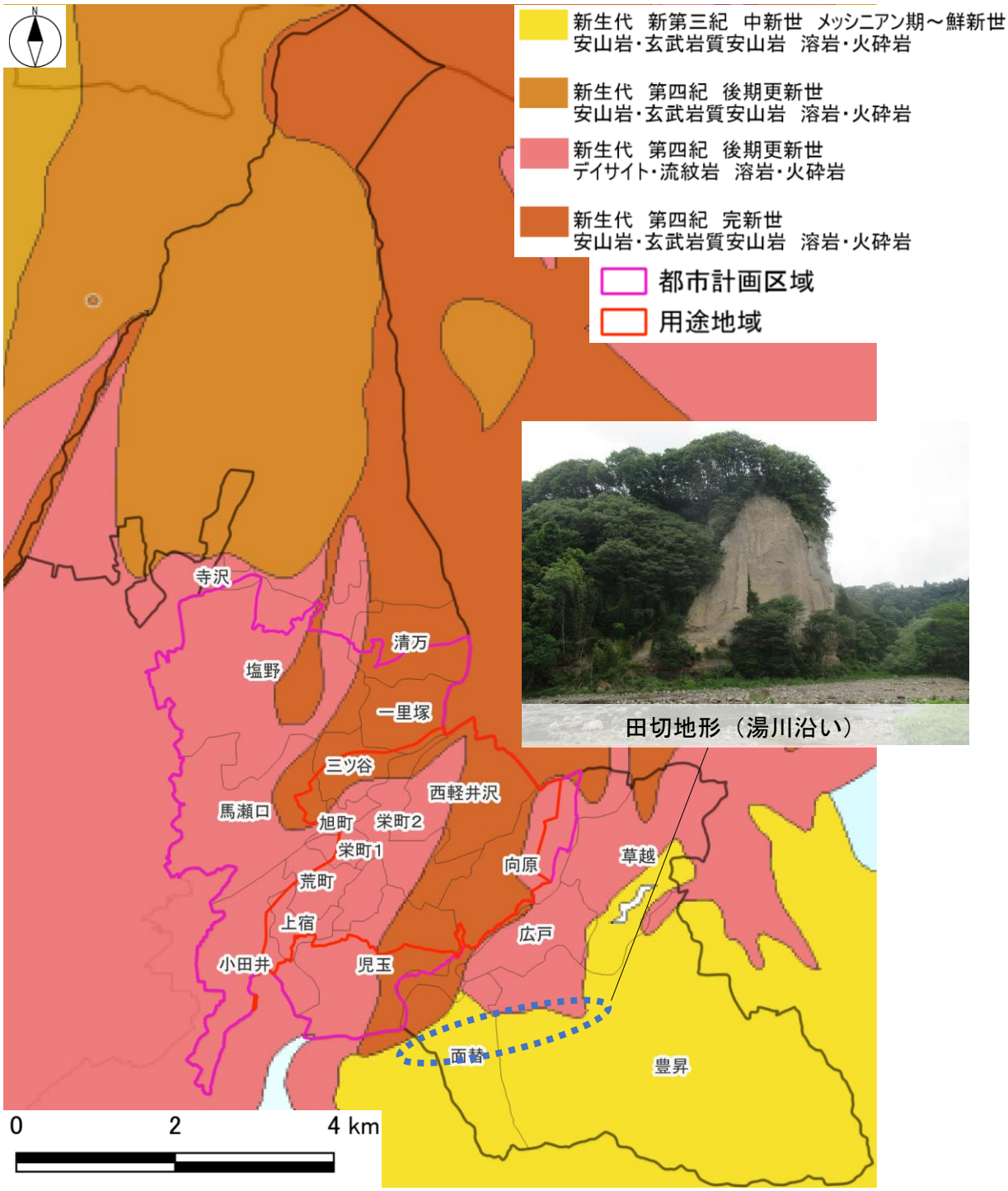


図　御代田町の地質

（４）植生・農地

浅間山の標高の高いエリア（標高 2,000m 地帯、通称“天狗の露地”）にはシラビソ等の天然林が広がっている。浅間山麓や森泉山、平尾山には天然のアカマツ群落やカラマツの人工林が広く分布し、町場（用途地域内）はカスミザクラやコナラをはじめとする雑木林のほか、天然のアカマツ群落も残存している。

農地はレタス栽培等の畑地面積が町土の約 12%を占めている（水田面積は約 6%）。

日本最古のカラマツ人工林

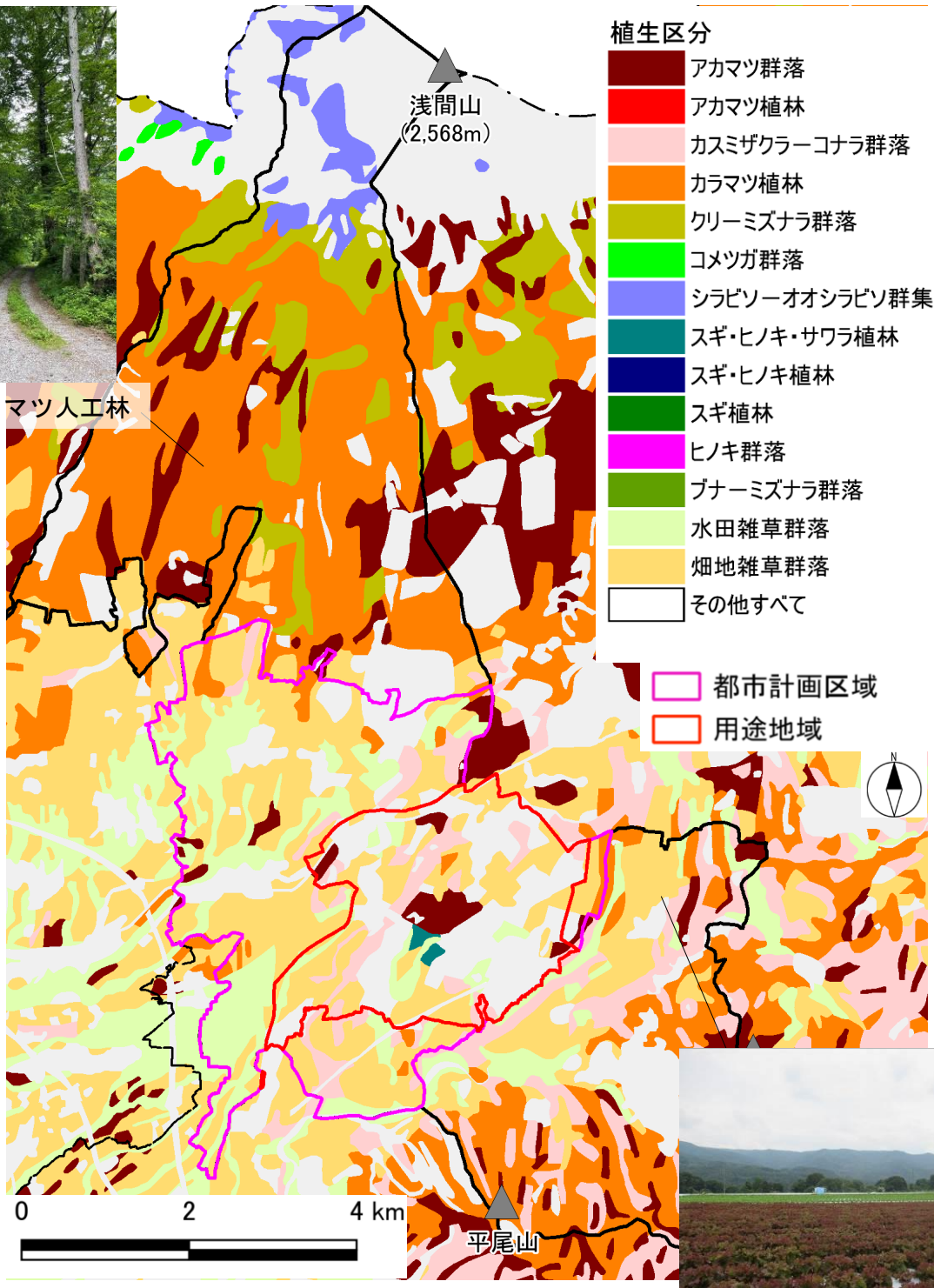
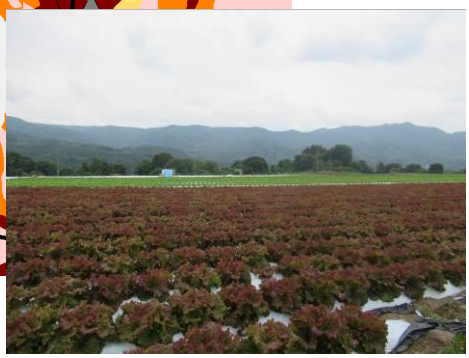


図　現況植生



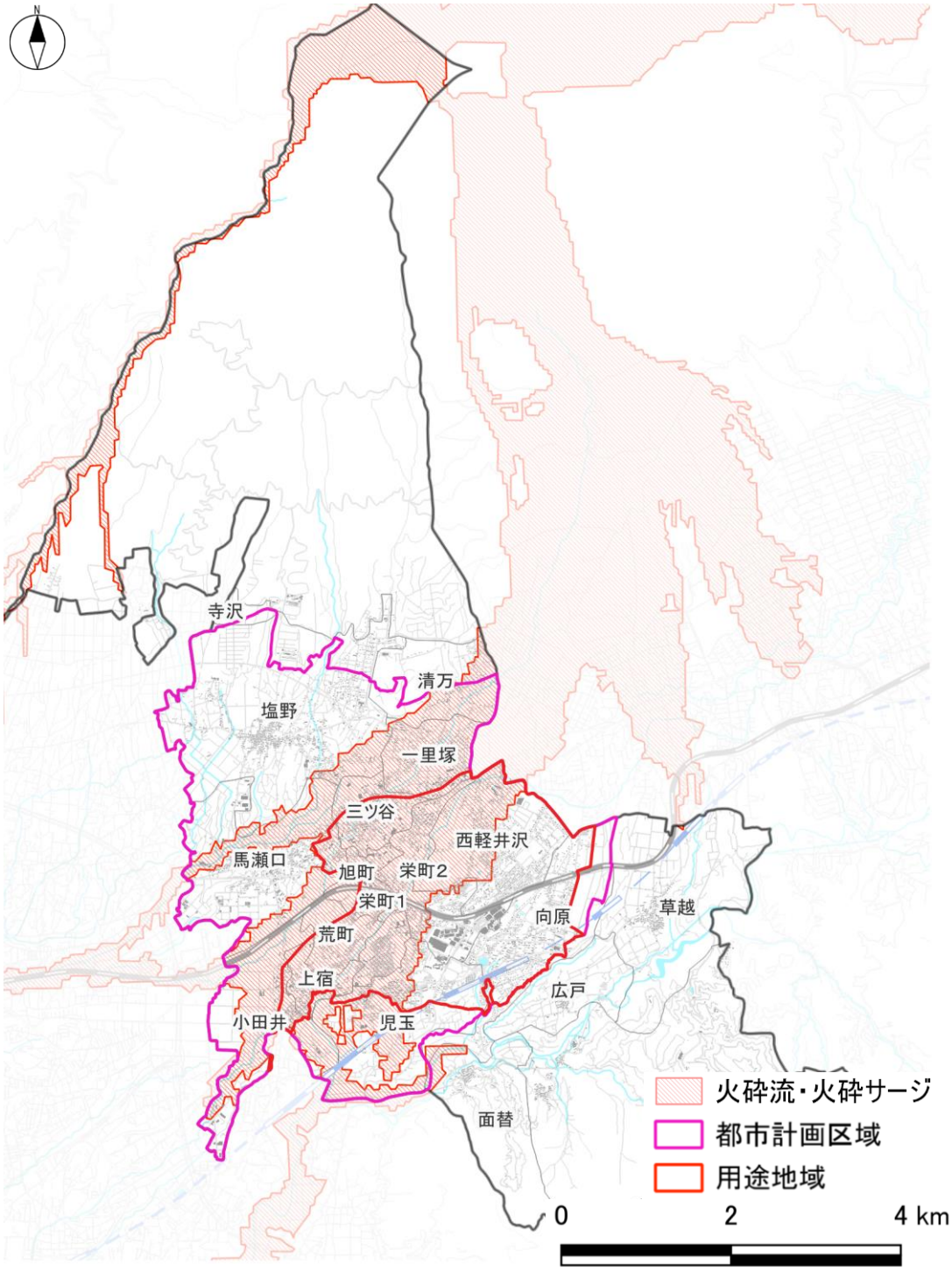
一面のレタス畑

（５）災害リスク

① 火山災害のリスク

大規模な噴火が起きた場合には、御代田町にも火砕流や熱風、融雪型火山泥流等による大きな被害が予想されている。現在、浅間山の噴火に関する予測は３つのシナリオで行われ、ハザードマップが公表されている。

天仁･天明クラスの大規模噴火が発生した場合は、町中心部のほとんどが火砕流･火砕サージ流下予測範囲に含まれ、町全域に降下火砕物（降灰）が 50cm 以上積もるおそれもある。



出典：浅間山火山防災マップ

図　火山災害：大規模噴火

② 土砂災害・水害のリスク

土砂災害のおそれがある箇所として、急傾斜地法によって定められる急傾斜地崩壊危険区域（２か所）が指定されている。土砂災害防止法によって定められる土砂災害特別警戒区域（175か所）、土砂災害警戒区域（222 か所）が指定されている。

湯川、濁川、繰矢川の３河川では、水防法に基づき洪水による被害の軽減を図るため洪水浸水想定区域図が公表されている。

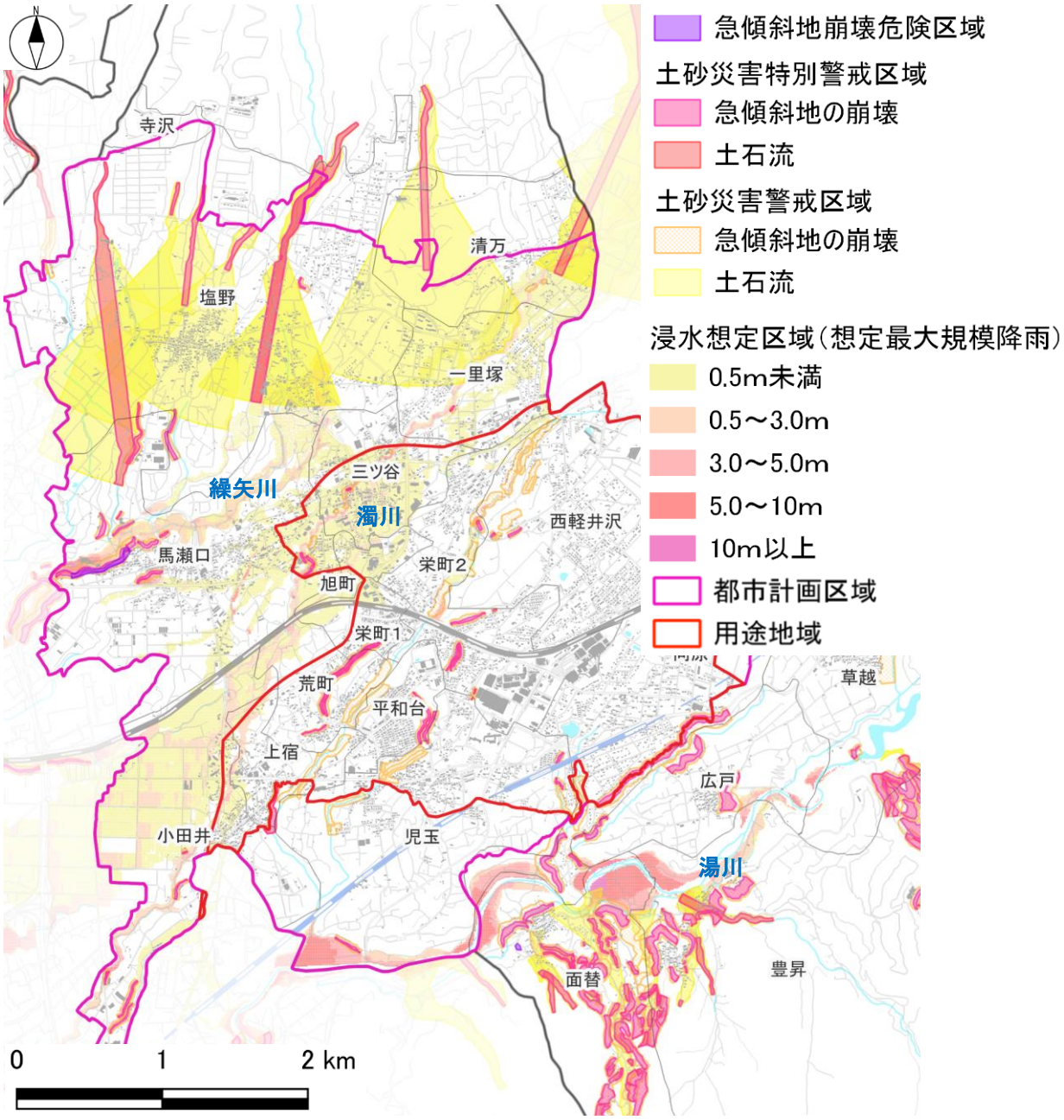
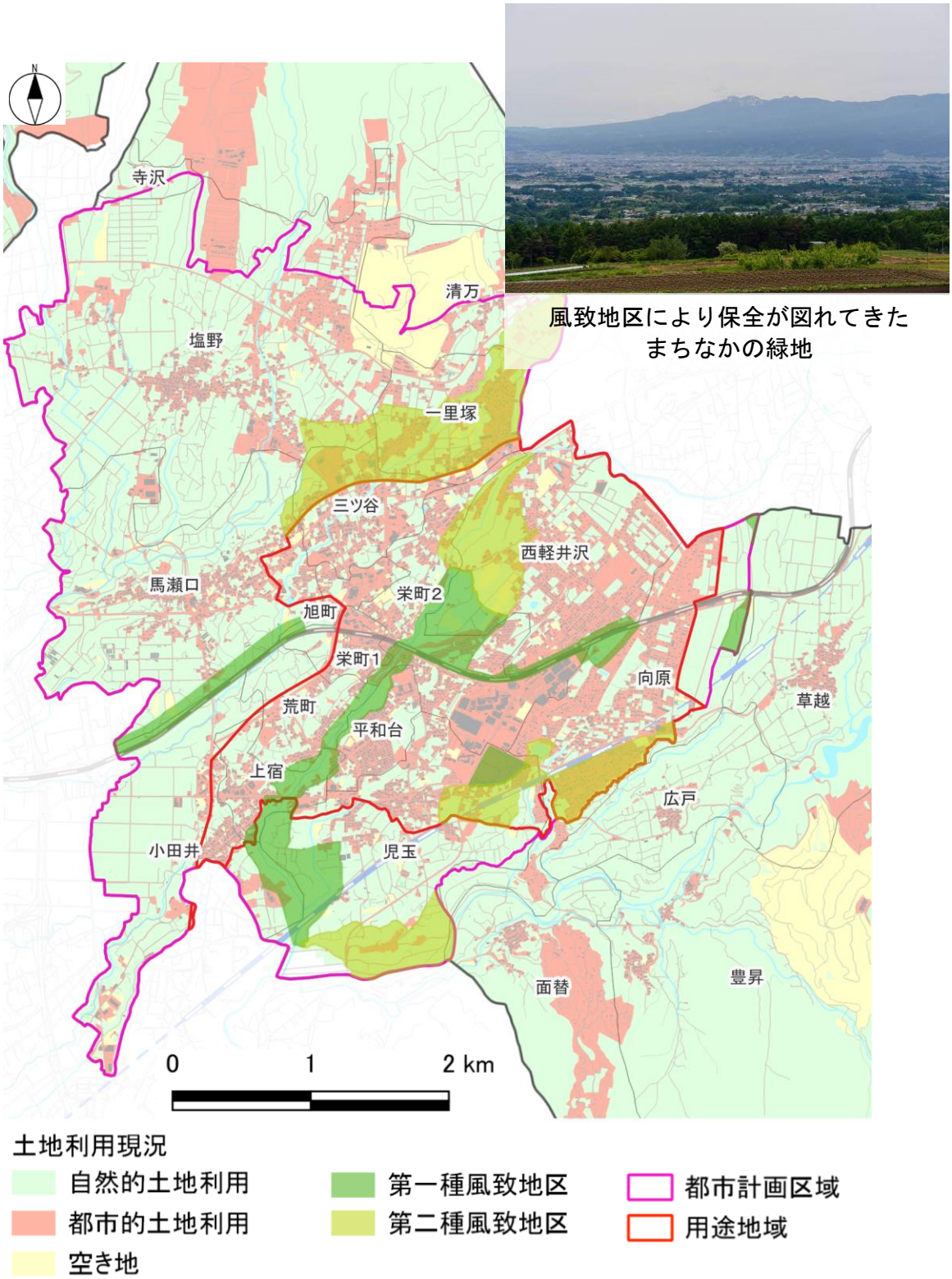


図　土砂災害・水害リスク区域

（６）土地利用・法規制の現況

町の一部に都市計画区域が指定されているが、都市的土地利用は概ねこの区域内にある。御代田駅からおおむね半径 4km 以内に都市計画区域が収まっており、比較的コンパクトなまちを形成し、用途地域内に都市的土地利用が集積している。用途地域外の都市計画白地は農振農用地で農地の保全が図られている。用途地域内外の沢筋等に連なる森林は風致地区として保全が図られている。



出典：平成 28 年御代田町都市計画基礎調査

図　土地利用の現況と主な法規制

（７）集落の成り立ちと町の歴史

湧水の得られる北側や湯川沿いの南側の山麓部には古くから集落が分布し、町を横切る２本の旧街道沿いにも集落が発達してきた。とくに塩野は県内でも数少ない千年村※の一つに認証されている。他方で、町役場周辺の町の中心部の居住の歴史はまだ浅く、鉄道駅の開業とともに発展してきた。

※「千年村」とは千年を基準として、自然的社会的災害・変化を乗り越えて，生産と生活が存続してきた土地を指す。

塩野（千年村）

馬瀬口（旧北国街道）

草越

小田井（旧中山道）

都市計画区域
用途地域
主な集落
旧街道（中山道）
旧街道（北国街道）

出典：「今昔マップ on the web」より作成

図　集落の分布（1912 年）

（８）交通

東西方向は、まちの中央部を国道 18 号としなの鉄道が通り、小諸や軽井沢の各方面と結ばれている。なお、小諸･軽井沢間の列車の運行頻度は 1 時間に 1 本程度である。

南北方向は、やまゆりラインとかりん道路がまちの中心部を通り、南は佐久方面に通じている。その他、北側には浅間サンライン、南側は県道 137 号線や 156 号線が隣接自治体との間を結ぶ幹線となっている。

高速道路へのアクセスは、最寄りの上信越自動車道の佐久 I.C. までは車で約 10 分である。

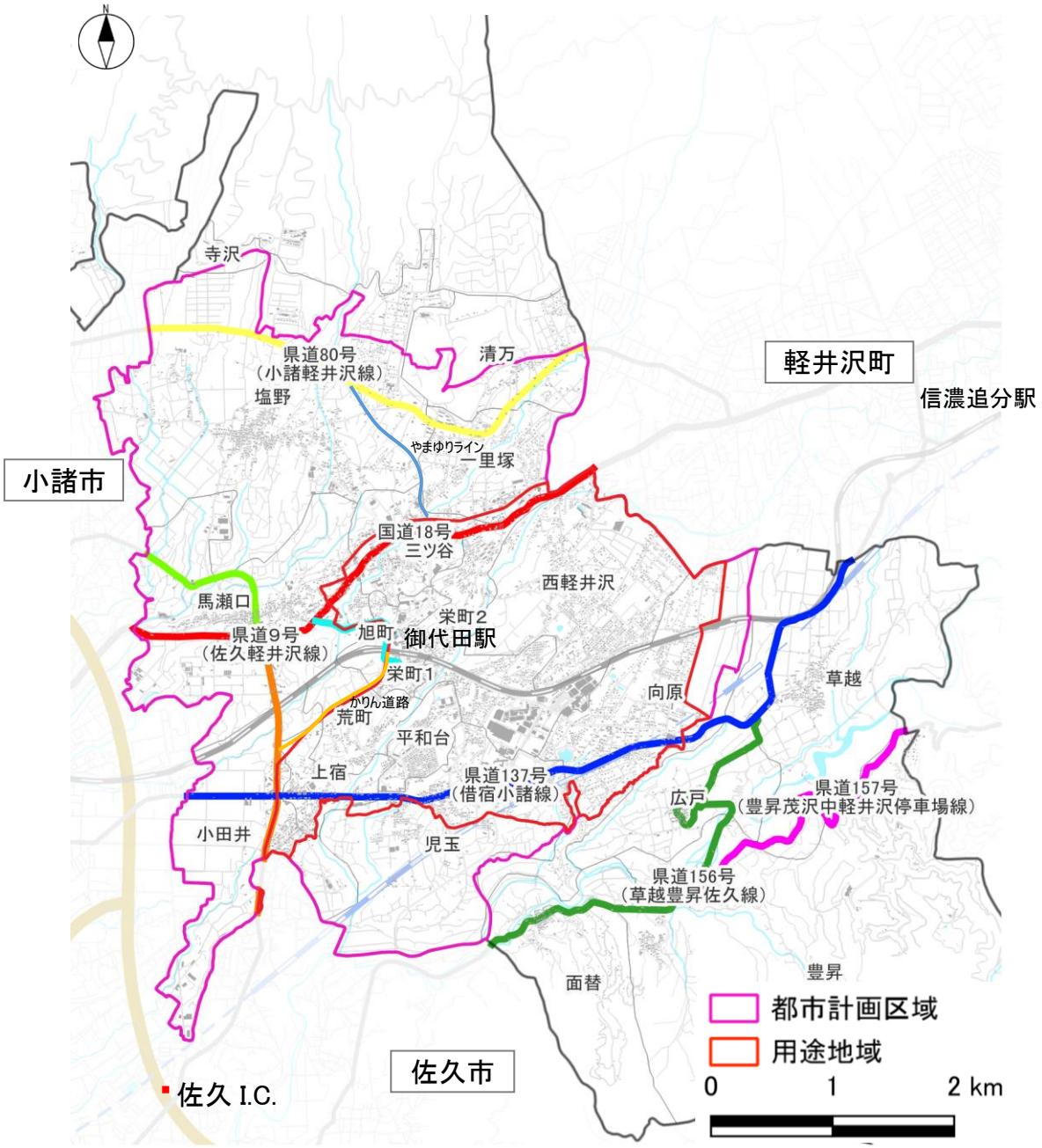
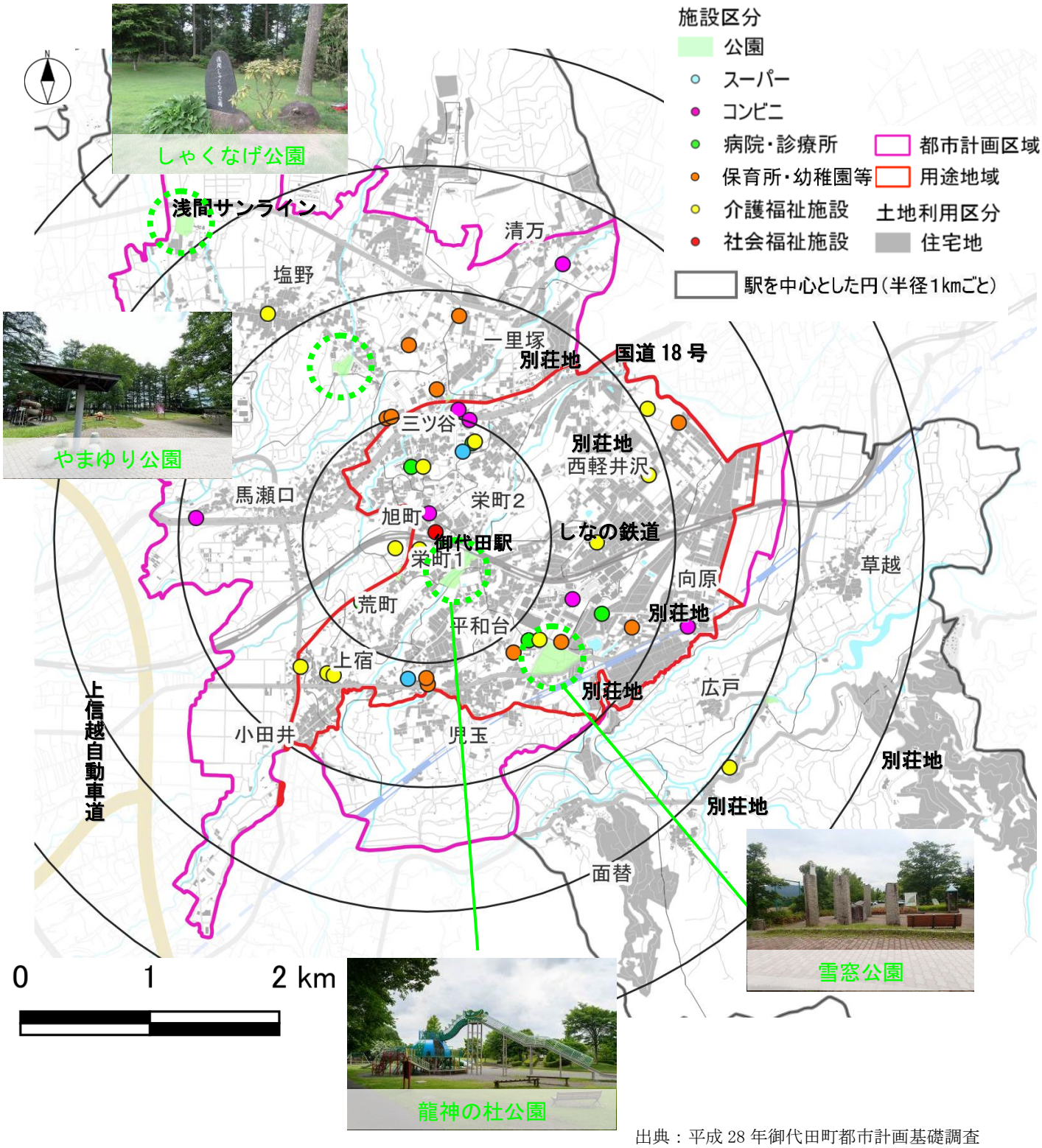


図　町域及び周辺自治体との交通網

（９）現在の居住地の広がりと都市施設の整備状況

町内には、御代田駅からおおむね 4km の範囲に収まる都市計画区域内に、古くからの集落のほか、新興の住宅団地や別荘地など多様な居住地が展開している。

平成初期に着工した北陸新幹線の整備とともに町のインフラ整備が進展し、下水道普及率はほぼ 100%で、比較的規模が大きく整備の行き届いた公園が町内に４か所ある。主要な都市施設は用途地域内に集約され、生活利便施設もその中でほぼ充足している。



出典：平成 28 年御代田町都市計画基礎調査

図　現在の住宅地の分布と都市施設の整備状況